

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素からJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。8月の果実販売動向をお伝えします。

スイカについては終盤を迎え、山形・長野県産が中心となる中、産地における降雨の影響で出荷量が増え切らずに総体量はやや減少傾向となりました。それでも消費地では猛暑が続いた上にお盆での需要が重なったため、価格は強含みかつ荷動きも順調な販売となりました。

メロンについては本県産が出荷の中心となりましたが、すいか同様に産地の降雨により市場の入荷量は増え切らず、お盆需要に対して不足感のある販売となりました。最終盤となる北海道産も入荷が少なくなったことを受けて、高値基調での販売となりましたが、売り場は欠品対応のために縮小が加速しました。

桃については盆前までは長野・

福島県産のあかつきが中心となり、盆明け以降は同じく長野・福島県産の川中島が販売の中心となりました。しかしどちらも東北地方を中心に降雨の影響を受けて生理落下が多くなり、入荷量が伸び悩みました。月の後半には売り場は縮小していったことに加えて安価な他県産の回り品が増えたため入荷比率の高かった大玉果を中心に荷動きは鈍化傾向となりました。

ブドウについては山梨県産シャインマスカットが本格化を迎えましたが、粒肥大が順調に進み大房傾向となり安定した入荷となりました。売り場は広く確保されており、荷動きを止めないために回転を重視した価格での販売となりました。

リンゴについては長野県産の極早生やシナノリップがスタートとなりましたが、安定した入荷となりました。続いて長野県産サンツがるが出荷開始となり、徐々にリ

ンゴの総体量が増加していきました。前年産に比べ大玉傾向となっており、色回りも良く、順調な生育に伴い前進出荷で安定した入荷となり、総体量が増えてくるにつれ徐々に価格を下げながらの荷捌き重視の販売となりました。長野産サンツがるは前進出荷から9/10頃までの販売となる見込みです。9月からは本県産のサンツがるが本格出荷となっていく、総体量がさらに増えていき、売り場の拡大が進む予想です。ただし各県産とも大玉傾向の為比率の高い32玉以上については荷動きが鈍くなることとが予想されるため、価格を下げつつの販売となる見通しです。

当農協では8月は恋空、きおう中心の販売となり、9月からはサンツがるを本格的に出荷していきます。

きおうまでに関しては概ね順調な在庫数となっており、サンツがるにしても昨年よりも着色の進みは早く、早出しサンツがるの在庫数は前年産より大幅な増加となりました。早生種に関しては日々状況が目まぐるしく変わる可能性もあるため、品質や小売価格に注

視しつつ、有利販売を目指して中生種の販売へとつないで参りたいと思います。

全農あおもりデータ（8/31累計）

品 種	つがる	きおう	その他	合 計
単 価 (円)	4,688	3,992	4,155	4,117
前 年 比 (%)	—	104	117	113
数 量 (箱)	2,342	14,242	11,809	28,393
前 年 比 (%)	—	214	104	158

※10kダンボール1箱当りの数値となります